

2025年3月期第3四半期 決算説明会・主な質疑応答

決算説明会での主な質疑応答を掲載しています。

開催日時：2025年2月6日（木）

<ご留意事項>

「主な質疑応答」は、説明会での質疑をそのまま書き起こしたのではなく、ご参加いただけなかった方々向けに、当社の判断で簡潔にまとめたものです。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

映像

Q：3Q 単独の前年比は、売上収益はほぼ横這いとなった一方で、営業利益は減益となった理由は？

A：前年比で為替換算レートは円安となり増収要因となりましたが、Z9 の先進機能を展開した下位モデルの Z6III や Z50II の市場投入により平均販売単価が下落しました。また、今期に買収した RED 社の赤字が、営業利益の下押し要因となりました。

Q：中国のデジタルカメラ市場の見通しについて教えてください。

A：足元、春節商戦は活況であるものの、前回の決算公表時（11月）にもご説明したとおり、マクロ経済の減速によりカメラ市場の拡大には一服感が出てきており、今後の市況を注視しています。

精機

Q：FPD 装置事業の来期見通しを教えてください。

A：高精細な第6世代や第8世代向け FPD 露光装置を中心に顧客から順調に受注を受けており、来期 30 台以上の販売を見込んでいます。一定の受注を獲得することで製造コストも改善し、収益性は向上するものとみています。

Q：来期の半導体装置事業の見通しについて教えてください。

A：新品の半導体露光装置の販売については、中国、その他アジアや日本の顧客への販売を見込んでいます。サービス収益は納入済み装置が多い主要顧客の装置稼働動向の影響を大きく受けることとなります。新品装置の販売やサービスは、来期後半からの回復を期待しています。

Q：新プラットフォーム ArF 液浸露光装置は、どの半導体メーカーと共同で開発しているのか？また、競合の装置に比べて、どこが優れているのか？

A：共同開発をしている主要半導体メーカーの企業名についてはお答えを控えさせていただきます。2028 年度に当該企業様へのプロトタイプ納入を目指して共同開発を進めています。高速で動く

新開発のステージ、メンテナンス時間の短縮等の利便性改善、他社 ArF 液浸露光装置との互換性確保など、顧客のニーズを踏まえた開発を行なっています。

Q：新プラットフォーム ArF 液浸露光装置の販売先は？市場シェアはどれくらいを目指すのか？

A：いわゆる半導体メーカーの BIG3（Intel、Samsung、TSMC）を含む幅広い顧客にご利用いただきたいと考えています。市場シェアは、当社の ArF ドライ露光装置並みを目指します。

コンポーネント

Q：コンポーネント事業の来期見通しを教えてください。

A：AI を除く半導体市場については、来期前半はかなり厳しい状況が続くものの、来期後半には回復するものとみており、EUV 関連コンポーネントや光学コンポーネントは今期並み、もしくはそれ以上の業績の拡大を見込んでいます。また、コンポーネント事業に含まれているインダストリアルソリューションズ事業での構造改革の効果により、セグメント全体としては来期営業利益改善を見込んでいます。

全社

Q：3Q 実績は、社内計画に対してどういう進捗であったか？

A：全社ベースで売上収益は約 100 億円、営業利益は約 30 億円、計画を下回りました。セグメント別では、映像事業は概ね計画通りに進捗しましたが、精機事業では一部装置の据付が繰り延べとなり、計画を下回りました。ヘルスケア事業では市況の停滞や一時的な物流混乱による一部製品の納入の遅れ、コンポーネント事業やデジタルマニュファクチャリング事業では一部の製品の引き渡ししが 4Q へ後ろ倒しになり計画を下回りました。

Q：拠点再編に伴う遊休資産の減損損失は、11 月に公表した業績見直しには織り込まれていたのか、また、どのセグメントに計上されているのか、教えてください。

A：新本社への移転に伴う拠点再編により遊休資産となった国内拠点の一部設備の減損処理や加速償却により 13 億円の構造改革費用を「各セグメントに配賦されない全社損益」の「本社管理部門費用」に計上しました。これらの費用は、前回 11 月の決算発表の際に公表した業績見直しには含まれていません。

Q：前回の決算発表で、来期に向けて自助努力による固定費の見直しを検討しているという説明があったが、進展があれば教えてください。

A：この中期経営計画の中ではセグメント毎に成長ドライバーを設定して、新規事業を育てるということを行ってきました。3 年が経過し、伸ばせそうな領域、一方、時間がかかりそうな領域などがかなり明確になってきました。現在、策定している来期予算の中で、事業セグメント毎に成長投資の取捨選択を行い、主に研究開発投資を抑えることを検討しています。詳細は 5 月の決算発表時にご説明いたします。

以上